

音楽科 1年 スタカリ期

時間帯	なかよしタイム		4月(9モジュール時間:3時間)
目標	幼稚園等での生活環境に似ている場で、自由遊びをしたり、新しい人間関係を築いたりしながら、小学校の中に安心できる居場所をつくることのできる。		
チェック	時間	学習活動	指導上の留意点 評価規準<評価方法(観点)>
□□□ □□□	2	○『うたってなかよくなるう』の曲を楽しく歌う。 →活動例 ・『ぞうさん』『ちゅうりっぷ』『ちゅうちょう』『こいのぼり』『おつかいありさん』『ことりのうた』『こぶたぬきつねこ』を歌う。	○子どもたちがイメージを広げ、興味をもって歌えるように、出てくる生き物になりきって、体を動かす機会を設定する。 ◇曲の気分を感じ取って、楽しく体を動かしながら聴いたり、歌ったりしている。 <表現①②③>
□□□	1	○校歌を歌う。	○校歌に親しみをもって歌えるように、歌詞の内容を絵で描いたり、声を合わせて旋律を歌ったりする時間を設定する。 ◇校歌に親しみをもって、体全体を使いながら楽しく歌っている。 <表現③>
【備考】 ・音楽の単元「うたでおどってなかよくなるう」をスタートカリキュラムのなかよしタイムに位置付け、モジュール学習を行う。時間は、1モジュール15分×9で3時間扱いとする。			

音楽科 1年 スタカリ期

時間帯	ぐんぐんタイム		4・5月(6モジュール時間:2時間)
目標	小学校生活の中で見つけた疑問や発見を友達と共に解決したり、共有したりしている。		
チェック	時間	学習活動	指導上の留意点 評価規準<評価方法(観点)>
□□□	1	○『チェッチェッコリ』を、体を動かしながら聴く。	○曲想を感じ取って体を動かせるように、ペアで手をつないだり、手拍子をしたりする動きを例示する。 ◇曲の気分を感じ取って、楽しく体を動かしながら聴いている。 <表現①②③>
□□□	1	○『セブンスステップス』や『チェッチェッコリ』を、体を動かしながら聴く。	○曲想を感じ取って体を動かせるように、ペアで手をつないだり、手拍子をしたりする動きを例示する。 ◇曲の気分を感じ取って、楽しく体を動かしながら聴いている。 <表現①②③>
【備考】 ・音楽の単元「うたでおどってなかよくなるう」をスタートカリキュラムのなかよしタイムに位置付け、モジュール学習を行う。時間は、1モジュール15分×6で2時間扱いとする。			

音楽科 1年

題材	2 はくに のって あそぼう			5・6月(6時間)
目標	拍の流れにのって歌ったり体を動かしたりする。			
評価 規準	(①知・技) 拍の流れに気付き、拍の流れにのって歌ったり、体を動かしたりしている。 (②思・判・表) 拍の流れにのって、工夫して歌ったり体を動かしたりしている。 (③主体的態度) 拍の流れにのって、友達と一緒に歌ったり体を動かしたりしようとしている。			
教材	さんぼ 中川李枝子 作詞 久石譲 作曲 p16 じゃんけんぽん 芙龍明子 作詞 橋本祥路 作曲 ヘ長調 4分の2拍子 p18 なまえあそび みんなで あそぼう 長井理佳 作詞 長谷部匡俊作曲 ヘ長調 4分の2拍子 p20 かたつむり 文部省唱歌 ヘ長調 4分の2拍子 p24			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『さんぼ』を聴きながら行進をしたり、手拍子をしながら歌ったりして学習のめあてをつかむ。 学習のめあて はくにのってあそぼう	○拍の流れに気付けるように、曲に合わせて行進をする時間を設定する。	◇拍の流れにのって、体を動かしたり手拍子を打ったりしている。 <表現①②③>
追求する	1 1 1 1	○『じゃんけんぽん』を聴いたり体を動かしたりする。 ○『なまえあそび』で遊ぶ。 ○いろいろな『なまえあそび』で遊ぶ。 ○『みんなで あそぼう』を拍の流れにのって歌ったり、歌に合わせてリズム打ちをしたりする。	○拍の流れにのってじゃんけんを遊ぶように、友達と歌いながらじゃんけんをする機会を設定する。 ○文字数の違う言葉を拍にのせることができるように、自分や友達の名前を拍にのせて伝え合う時間を設定する。 ○拍にのせて様々な言葉で遊ぶように、くだもの名前、乗り物の名前など、名前のタイトルを提示する。 ○拍の流れを生かしてリズム打ちをしたり体を動かしたりできるように、これまでに学習してきた曲と比較しながら歌う時間を設定する。	◇拍の流れにのって、体の動かし方を工夫しながら遊んでいる。 <表現②> ◇拍の流れにのって様々な名前を伝えている。 <発言・表現①> ◇様々な名前を拍にのせて伝え合うことについて思いをもち、発言したり歌ったりしている。 <発言・表現②> ◇拍の流れを聞き取り、拍に合わせて手拍子を打ったり体を動かしたりしている。 <表現①②③>
ま 生と かめ する	1	○『かたつむり』を拍の流れにのって歌ったり、歌に合わせてリズム打ちをしたりする。	○拍の流れにのって演奏できるようになったことを実感できるように、曲に合わせて自由に体を動かす時間を設定する。	◇拍の流れを聞き取り、体の動かし方を工夫しながら楽しく歌ったり遊んだりしている。 <表現①②③>
【備考】				
・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素): 拍, リズム, 呼びかけとこたえ ・題材のつながり: 1年「りずむを たのしもう」				

音楽科 1年

題材	3 りずむを たのしもう			6・7月(7時間)
目標	拍の流れをにのってリズムの打ち方や身体表現を工夫したり、手拍子やタンブリン等でリズムフレーズを演奏したりする。			
評価 規準	(① 知・技) 楽器の奏法や曲に合ったリズムに気付く、拍の流れにのって、手拍子やカスタネット、タンブリンでリズムフレーズを演奏している。 (② 思・判・表) 拍の流れにのりながらリズムの打ち方や体を動かしたりすることについて思いをもったり、様々なリズムを楽しみながら聴いたりしている。 (③主体的態度) 音楽に合わせて歌ったり、リズムを表現して遊んだりする活動を楽しもうとしている。			
教材	しろくまの ジェンカ 平井多美子 作詞 ケンウォール 作曲 ヘ長調 4分の2拍子 p22 ぶん ぶん ぶん 村野四郎 作詞 ボヘミア民謡 ヘ長調 4分の2拍子 p26 うみ 文部省唱歌 林柳波 作詞 井上武士 作曲 ト長調 4分の3拍子 p30 ことばでリズム p28			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『しろくまのジェンカ』を聴いて、曲想を感じ取ったり、音楽に合わせて身体表現をしたりして学習のめあてをつかむ。 学習のめあて おんがくのリズムにあわせて、からだをうごかしてあそぼう	○白くまが踊る様子を思い浮かべながら身体表現ができるように、音楽に合わせた身体表現の仕方を例示する。	◇拍の流れにのりながら様々なリズムを聴き、リズムに合わせて体を動かしている。 <表現②>
追求する	1	○『ぶん ぶん ぶん』を、楽しく歌ったりリズム打ちをしたりして、下のリズムフレーズに慣れる。	○さまざまな奏法に気付けるように、タンブリンの奏法を試行する時間を設定する。	◇曲に合ったリズムを理解し、手拍子やタンブリン等でリズムフレーズを演奏している。 <表現①>
	1	○『しろくまのジェンカ』のリズムを、拍の流れに乗ってカスタネットで打つ。	○正しい奏法を身に付けられるように、カスタネットの奏法を例示し、ゆっくりとした速度から練習する時間を設定する。	◇カスタネットの奏法を身に付け、拍の流れに乗って、リズムフレーズを打っている。 <表現①>
	1	○『ぶん ぶん ぶん』を、楽しく歌ったりリズム打ちをしたりして、下のリズムフレーズに慣れる。	○さまざまな奏法に気付けるように、タンブリンの奏法を試行する時間を設定する。	◇曲に合ったリズムを理解し、手拍子やタンブリン等でリズムフレーズを演奏している。 <表現①>
	1	○『うみ』を歌う。	○4拍子や2拍子とは違うリズムの感じに気付けるように、『かたむり』や『ぶんぶんぶん』と比較しながら手拍子を打つ時間を設定する。	◇3拍子にのりながら、歌ったり体を動かしたりしている。 <表現②>
かまとめる・生	1	○拍打ちに合わせて『ことばでリズム』を楽しむ。	○たくさんの言葉から言葉を選べるように、イラストと言葉の書いてあるカードを黒板に掲示する。	◇拍の流れに乗って、言葉遊びを楽しんでいる。 <表現③>
	1	○『くりかえし』や『組み合わせ』を使って、リズムフレーズをつくって楽しむ。	○音楽の仕組みを意識して、リズムフレーズをつくれるように、反復の仕方を例示する。	◇音楽の仕組みを意識して、リズムフレーズを楽しくつくっている。 <表現①②③>
【備考】・拡大譜、範唱CD、DVD、簡易打楽器(タンブリン・カスタネット等)を準備する。 ・海の波の様子を表すために、スズランテープを短く切った教材を1人に1本ずつ用意してもよい。 ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素): リズム , 拍, 反復 ・題材のつながり: 1年「はくにのってあそぼう」				

音楽科 1年

題材	4 みのまわりの おとに みみを すまそう			7月(3時間)
目標	いろいろな楽器の音色に気を付けて聴くとともに、曲の気分を感じ取って音の出し方を工夫しながら旋律を階名で暗唱したり、鍵盤ハーモニカで演奏したりする。			
評価 規準	(①知・技)身の回りの様々な音に気付き、即興的に音を選んだりつなげたりして遊んでいる。 (③思・判・表)声の出し方やつなげ方を工夫して、音楽づくりの発想を得ている。 (④主体的態度)身の回りの音に興味・関心をもち、友達と協力して音を探したり即興的な音遊びをしたりする学習に取り組もうとしている。			
教材	おとをさがしてあそぼう p 3 2			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○身の回りの音探しをして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — みのまわりのおとをみつけよう	○学校で聞こえてくる様々な音に気付けるように、校内や校外を散歩する時間を設定する。	◇学校にある様々な音に気付き、発言している。 <発言①②③>
追求する	1	○身の回りから探した音を言葉で表現する。	○身の回りから探した音に対するいろいろな表現方法をに気付けるように、見つけた音を言葉で表現したものをタブレットで録音して紹介し合う機会を設定する。	◇学校にある様々な音を擬音語や擬態語で表している。 <発言②>
・ま 生と かめ する	1	○身の回りから探した音をつなげて遊ぶ。	○音のつなげ方を試しながら音楽づくりができるように、ペアやグループごとにつくった音楽を、タブレットで撮影して紹介する時間を設定する。	◇身の回りにある様々な音をつかって、音楽をつくって遊んでいる。 <表現①②③>
【備考】 ・タブレットを使用する。作成したプリントを撮影したものや、自分の声で録音したものを共有する。 ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音色、旋律、呼びかけとこたえ ・題材のつながり：2年「せいかつの 中に あるおと」				

音楽科 1年

題材	5 どれみと なかよく なるう		8・9月(11時間)
目標	いろいろな楽器の音色に気を付けて聴くとともに、曲の気分を感じ取って音の出し方を工夫しながら旋律を階名で暗唱したり、鍵盤ハーモニカで演奏したりする。		
評価 規準	(①知・技)楽器の音色を聴き取り、曲の気分を感じ取りながら聴いている。旋律を階名で暗唱したり、鍵盤ハーモニカで演奏したりしている。 (②思・判・表)声や鍵盤ハーモニカの音色を感じ取って、音の出し方を工夫して歌唱や演奏をしている。 (③主体的態度)鍵盤ハーモニカに興味をもって、いろいろな音を出しながら進んで演奏しようとしている。		
教材	どんぐりさんのおうち 久野静夫 作詞 市川都志春 作曲 ハ長調 4分の2拍子 p 3 8 たのしく ふこう 鹿谷美緒子 作詞・作曲 ヘ長調 4分の2拍子 p 3 7 みつばちのハニーの ぼうけん【鑑】 松田昌 作曲 p 4 1 なかよし 海野洋司 作詞 佐井孝彰 作曲 ハ長調 4分の4拍子 p 4 2 どれみであいさつ 安西薫 作詞 長谷部匡俊 作曲 4分の4拍子 ひのまる 文部省唱歌 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 ハ長調 4分の2拍子 p 4 4		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○『どんぐりさんのおうち』『たのしくふこう』を、鍵盤ハーモニカで歌に続けて楽しみながら演奏し、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて どれみとあそんでなかよくなるう	○鍵盤ハーモニカの音色を楽しみながら、音の出し方や音の位置を覚えられるように、階名唱や指番号で歌う活動を設定する。
	2	○『たのしくふこう』を、鍵盤ハーモニカで歌に続けてリズム奏や音づくりをして楽しむ。	○正しい息の使い方や指使いで演奏できるように、タンギングや息の強さについて例示する。
追求する	1	○『みつばちの ぼうけん』を、様子を思い浮かべながら、いろいろな楽器の音色の違いを感じ取って聴く。	○楽器の音色を聴き取り、曲の気分を感じ取れるように、曲の中で使われている楽器の音を例示する。
	2	○『なかよし』や『どれみであいさつ』で、拍の流れに乗って音遊びをする。	○声や音を揃えることの大切さに気付けるように、音の出だしや終わり、休符が揃った時に感じたことを共有する時間を設定する。
	1	○『ひのまる』を、曲の気分を感じ取って歌詞唱をする。	○曲想を体感できるように、曲想に合わせて身体表現をしながら歌う時間を設定する。
	1	○旋律の階名唱をしたり階名で暗唱をしたりして、鍵盤ハーモニカで演奏する。	○鍵盤の位置を捉えて演奏することができるように、原曲の楽譜のヘ長調からハ長調に移調した楽譜を用意する。
すまとめる・生か	1	○『どんぐりさんのおうち』『ひのまる』を音色に気を付けながら演奏する。	○きれいな音の出し方を工夫して鍵盤ハーモニカを演奏できるように、息の強さを試行する時間を設定する。
	2	○『どんぐりさんのおうち』『ひのまる』を、歌と楽器を合わせて演奏したり、フレーズ毎に歌と鍵盤ハーモニカで交互奏をしたりして、楽しむ。	○友達と音を合わせて演奏できるように、同じパートを担当する児童同士で集まって演奏する時間を設定する。
【備考】			
・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：階名，音色，旋律，呼びかけとこたえ ・夏休みの宿題として、鍵盤ハーモニカを出せるとよい。(学年と相談) ・題材のつながり：2年「ドレミであそぼう」			

評価項目<評価方法(観点)>
※太字は「記録に残す評価」

◇鍵盤ハーモニカの音の出し方や音の位置を覚えて音色に親しんでいる。
<表現③>

◇鍵盤ハーモニカの音の出し方や指使いを覚え、演奏している。
<表現①>

◇楽器の音色を聴きとり、曲の気分を感じ取りながら場面を想像して聴いている。
<表現・記述②>

◇曲想を感じ取り、拍の流れに乗って歌唱したり音遊びをしたりしている。
<表現③>

◇曲想を感じ取り、音の出し方を工夫して歌唱している。
<表現②>

◇旋律を階名で暗唱したり、鍵盤ハーモニカをきれいな音で演奏したりしている。
<表現①>

◇旋律を階名模唱したり、きれいな音の出し方を工夫して鍵盤ハーモニカを演奏したりしている。
<表現②>

◇楽器の音色に気を付けながら、友達と音を合わせて鍵盤ハーモニカを演奏している。
<表現①②③>

音楽科 1年

題材	6 ようすを おもいうかべよう			10・11月(9時間)
目標	場面の様子を思い浮かべながら聴いたり、歌いや鍵盤ハーモニカの演奏の仕方を工夫したりして、表情豊かに音楽表現する。			
評価 規準	(①知・技)場面の様子と音色の関わりに気づき、場面の様子を思い浮かべながら演奏したり簡単な音楽をつくったりしている。 (②思・判・表)場面の様子を思い浮かべながら聴いたり、場面の様子に合う音色の楽器で演奏することについて思いをもったりしている。 (③主体的態度)場面の様子を思い浮かべながら楽しく聴いたり音楽表現したりしようとしている。			
教材	にんぎょうの ゆめと めざめ【鑑】 アンダソン 作曲 p62 きらきらぼし 武鹿悦子 作詞 フランス民謡 ハ長調 4分の4拍子 p60 ほしぞらの おんがく はる なつ あき ふゆ 三浦真理 作詞/作曲 ヘ長調 4分の2拍子 p64			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○『きらきらぼし』を聴いたり簡単に歌ったりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — ようすをおもいうかべよう	○場面の様子を思い浮かべられるように、音楽に合わせて体を動かしながら鑑賞する時間を設定する。	◇場面の様子を思い浮かべながら聴いたり、体を動かしたりしている。 <発言・表現②>
追 求 す る	1	○『きらきらぼし』を、場面の様子を思い浮かべながら歌う。	○場面の様子と強弱を結び付けられるように、教科書の絵や絵本等から、思い浮かんだイメージを伝え合う時間を設定する。	◇場面の様子に合わせて、強弱を工夫している。 <表現②>
	1	○『きらきらぼし』をキーボードで演奏する。	○正しいリズムで演奏できるように、ゆっくりとした速度の拍打ちに合わせて演奏する時間を設定する。	◇リズムに気を付けて、旋律を演奏している。 <表現①>
	2	○『ほしぞらのおんがく』を、場面の様子に合う音色の楽器で演奏する。	○場面の様子に合った音色の打楽器やその奏法を選べるように、鈴やトライアングルなどの打楽器を試行する時間を設定する。	◇場面の様子に合った打楽器の音色や演奏の仕方を工夫している。 <発言・表現②>
	1	○『ほしぞらの おんがく』の場面の様子に合う音色の楽器で音楽をつくり、台詞と合わせて演奏する。	○場面の様子に合わせて歌ったり音楽をつくったりできるように、星空の場面絵を提示する。	◇場面の様子に合わせて、声や音の出し方に気を付けながら、音楽をつくっている。 <表現①②③>
	2	○『はる なつ あき ふゆ』を、四季の様子を思い浮かべながら歌う。	○それぞれの季節のイメージに合わせて、声の出し方を変えながら歌えるように、それぞれの季節の特徴的な歌詞に合わせて体を動かす時間を設定する。	◇場面の様子を思い浮かべながら、季節ごと声の出し方を変えて歌っている。 <表現①>
ま と か め す	1	○『はる なつ あき ふゆ』と『きらきらぼし』の場面の様子を思い浮かべながら、歌ったり演奏したりする。	○場面の様子を思い浮かべながら、声や音の出し方に気を付けて演奏できるように、場面絵やイメージを書き込んだ拡大歌詞を提示する。	◇場面の様子を思い浮かべながら、声や音の出し方に気を付けて、表情豊かに演奏している。 <表現①②③>
【備考】・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素): 音色 , 速度, 旋律, 強弱 ・題材のつながり: 1年「せいかつの なかに あるおと」				

音楽科 1年

題材	7 せんりつで よびかけあおう			11・12月(8時間)
目標	呼びかけとこたえの仕組みに気づき、問いと答えを生かして聴いたり演奏したり、簡単な歌をつくったりする。			
評価 規準	(①知・技)呼びかけとこたえの音楽の仕組みに気づき、簡単な歌をつくっている。 (②思・判・表)呼びかけとこたえの音楽の仕組みを生かし、歌うことやリズムをつくることに思いをもっている。 (③主体的態度)呼びかけとこたえの音楽の仕組みや、音を音楽にしていくことに興味・関心をもち、曲を聴いたり簡単な歌をつくる学習に楽しく取り組もうとしている。			
教材	やまびごっこ おうちやすゆき 作詞 若月明人 作曲 ハ長調 4分の4拍子 p46 せんりつのまねっこ・おはなし p48 こうしんきょく【鑑】 チャイコフスキー 作曲 p50			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『やまびごっこ』を歌ったり遊んだりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — よびかけとこたえであそぼう	○「呼びかけとこたえ」の音楽の仕組みを視覚的に捉えられるように、先に言う役と山びこ役に分かれ、動きをつけながら歌う時間を設定する。	◇「呼びかけとこたえ」のある音楽に関心をもち、楽しく音遊びをしている <表現③>
追求する	1	○『やまびごっこ』を歌い方や体の動かし方を工夫して遊ぶ。	○呼びかけとこたえの仕方によって、感じ方が変わること気付けるように、友達のせんりつのまねっこ・おはなしを紹介する機会を設定する。	◇声の感じを変えながら、楽しく呼びかけたりこたえたりしている。 <表現②>
	2	○『せんりつのまねっこ・おはなし』をいろいろな旋律をつくって遊ぶ。	○音楽をつくることに対する発想を得られるように、旋律の例示をしながら真似をし合う機会を設定する。	◇問いと答えをつかって音楽をつくることについて思いをもち、作りたいお話について発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
	1	○『せんりつのまねっこ・おはなし』をキーボードでまねっこして遊ぶ。	○呼びかけとこたえを生かして音楽をつくれるように、ペアで相談しながらつくる機会を設定する。	◇旋律をつなげて音楽をつくることに思いをもち、発言したり旋律を作ったりしている。 <発言・表現②>
すまとめる・生か	2	○『こうしんきょく』を問いと答えを見つめながら聴く。	○呼びかけ合う旋律に気付けるように、学級を2つに分け、管楽器と弦楽器それぞれの音が聴こえてきたときに立ったり座ったりする時間を設定する。	◇呼びかけ合う旋律に気づき、曲に合わせて体を動かしている。 <表現・記述①②③>
	1	○『こうしんきょく』の紹介文を書く。	○曲想と呼びかけとこたえの関わりに気付けるように、場面ごとに紹介文を記述する学習プリントを用意する。	◇曲想と呼びかけとこたえを結び付けて聴き、そのよさを発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
【備考】				
・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素): 旋律, 呼びかけとこたえ				
・題材のつながり: 1年「ようすを おもいうかべよう」				

音楽科 1年

題材	8 がつきと なかよく なるう			1・2月（5時間）
目標	友達の歌声を聴きながら、発声の仕方を工夫し、声を合わせて歌う。			
評価 規準	(①知・技)曲想と楽器の音色やリズムとの関わりについて気付き、楽器の音色に気を付けて表現している。 (②思・判・表)曲想と音色やリズムとの関わりを生かして表現することについて思いをもったり、楽器の音色に気を付けながら曲全体を味わって聴いたりする。 (③主体的態度)打楽器の音色のよさや面白さを感じ取って、互いの音や演奏の仕方を比べながら表現したり、曲全体を味わって聴いたりする学習に進んで取り組もうとしている。			
教材	おとさがし p 5 2 さがしてみよう ならしてみよう 安西薫 作詞 長谷部匠俊 作曲 ハ長調 4分の4拍子 p 5 4 シンコペーテッドクロック アンダソン 作曲 p 5 8			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『おとさがし』をして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて _____ いろいろながつきのおとをみつけよう	○様々な楽器の音色を試すことができるように、楽器ごとのお試しコーナーを設定する。	◇様々な楽器の音色に気付き、その特徴について発言したり、様々な音を試しに鳴らしてみたりしている。 <表現①②③>
追求する	2	○『さがしてみよう ならしてみよう』の曲に合わせていろいろな楽器を演奏する。	○奏法により音色を変わること気付けるように「やさしい音」「元気な音」の歌詞を、別の歌詞に変えて演奏する機会を設定する。	◇曲に合わせて楽器の音色を工夫することについて思いをもって発言したり工夫を生かして演奏したりしている。 <発言・表現②>
まとめ 生かす	2	○『シンコペーテッドクロック』を聴き、紹介文を書く。	○楽器の音色に着目して聴けるように、登場する楽器を演奏する真似をしながら聴く時間を設定する。	◇ 曲想と楽器の音を結び付けて聴き、曲のよさについて発言したり記述したりしている。 <発言・記述①②③>
【備考】 ・場面絵，拡大譜，範唱CD，DVDを準備する。 ・よりどころとなる音楽を形づくっている要素（太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素）： 音色 ，リズム，旋律 ・題材のつながり：1年「ようすを おもい うかべよう」				

音楽科 1年

題材	9 みんなで おとを あわせよう		2月(8時間)
目標	拍を意識しながら、友達と楽器の音を合わせて楽しく合奏をする。		
評価 規準	(①知・技) 音を合わせて演奏することのよさに気付き、拍を意識しながら音を合わせて演奏している。 (②思・判・表) 友達の楽器の音を聴きながら音を合わせて演奏したいという思いをもったり、音を合わせた演奏の楽しさを感じ取りながら聴いたりしている。 (③主体的態度) 友達と楽器の音を合わせて演奏したり、音を合わせた演奏を聴いたりすることに楽しんで取り組もうとしている。		
教材	クシコクポスト【鑑】 ネット作曲 p76 こいぬのマーチ 久野静夫作詞 外国曲 ハ長調 4分の4拍子 p74		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○『クシコクポスト』を聴く。	○様々な楽器が音を合わせて演奏していることに気付けるように、楽器に合わせて手拍子をしながら聴く機会を設定する。
	1	○『こいぬのマーチ』や『学年選択曲』を聴き、歌ったり演奏したりして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて _____ みんなで音を合わせて歌ったり演奏したりしよう	○拍
追求する	1	合唱 ○『学年選択曲』を、音を確認しながら歌う。 合奏 ○『こいぬのマーチ』を歌詞や階名で歌ったり、キーボードで演奏したりする。	○音が合ったときの曲のイメージを思い浮かべることができるよう、全ての楽器を使った範奏を聴く機会を設定する。
	1	○『学年選択曲』の歌詞の内容を考えながら歌う。 ○『こいぬのマーチ』をキーボードや簡易打楽器で演奏する。	○拍や歌詞を意識すると音や声を合わせて表現できるように、自由に演奏したときと拍を意識して演奏したときの演奏を比較する機会を設定する。
	1	○『こいぬのマーチ』を、鍵盤ハーモニカと簡易打楽器で演奏しながら、音を合わせる方法を話し合いながら合奏する。	○友達と楽器の音を合わせる方法に気付けるように、自分たちの合奏を動画や音声で振り返る際に「友達と音が合っているか」という視点を提示する。
	1	○『学年選択曲』を、声を合わせて歌う方法を話し合いながら、合唱する。	○友達と声を合わせる方法に気付けるように、自分たちの合唱を動画や音声で振り返る際に「友達と声がか合っているか」という視点を提示する。
ま と め す	1	○『こいぬのマーチ』と『学年選択曲』を合唱したり合奏したりする。	○保護者に向けて発表する意欲や、友達と音や声を合わせて表現する楽しさを実感できるように、学年音楽の時間を設定する。
	1	○『こいぬのマーチ』『学年選択曲』のまよめの合奏を発表する。	○友達と音を合わせて演奏できるようになったことを実感できるように、演奏を保護者へ向けて発表する機会を設定する。
【備考】	・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音色, 旋律 ・題材のつながり：1年「がっきと なかよく なるう」		

評価項目<評価方法(観点)>
※太字は「記録に残す評価」

◇様々な楽器が音を合わせて演奏していることによさについて発言したり、記述したりしている。
<発言・記述②>

◇『こいぬのマーチ』を音を合わせて演奏することについて思いをもち、発言したり記述したりしている。
<発言・記述②>

◇音や声を合わせて歌ったり表現したりする方法を考えて発言したり、記述したりしている。
<発言②>

◇友達と音を合わせて演奏する方法を発言したり、表わしたりしている。
<発言・行動②>

◇友達と声を合わせて演奏する方法を発言したり、表わしたりしている。
<発言・行動②>

◇友達と声や音を合わせて演奏する楽しさを感じ、進んで声や音を合わせて演奏しようとしている。<表現③>

◇友達の楽器の音を聴きながら、演奏の仕方を工夫して、楽しく楽器を演奏している。
<表現①②③>

音楽科 1年

題材	10 にほんの うたを たのしもう			3月(5時間)
目標	わらべうたや日本の歌に興味を持ち、楽しく歌う。			
評価 規準	(①知・技)わらべうたや日本の歌の特徴に気付き、歌ったり音遊びをしようとしている。 (②思・判・表)わらべうたや日本の歌の旋律の特徴を生かして歌ったり音遊びをすることについて思いをもちている。 (③主体的態度)わらべうたや日本の歌に関心をもち、友達と楽しく歌ったり音遊びをしたりしようとしている。			
教材	さんちゃんが わらべ歌 p66 おおなみ こなみ わらべ歌 p66 おちやらか ほい わらべ歌 p68 はないちもんめ わらべ歌 うれしい ひなまつり サトウハチロー 作詞 河村光陽 作曲 きみがよ 古歌 林広守 作曲 p82			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『さんちゃんが』や『おおなみ こなみ』、『おちやらかほい』を聴いたり歌ったりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — にほんのうたにしたしもう	○わらべうたの楽しさに気付けるように、体の動きを付けて遊べる場を設定する。	◇わらべうたの旋律に関心をもち、進んで歌ったり遊んだりしている。 <表現①②③>
追求する	2 1	○オリジナルのわらべ歌を考える。 ○オリジナルのわらべ歌で遊ぶ。	○オリジナルのわらべ歌をつくる際の手掛かりとなるようにわらべ歌が2音でできていることや呼びかけとこたえがあることなどを例示する。 ○オリジナルのわらべ歌を体を動かしながら遊べるように、見合ったり一緒に遊んだりできる場を設定する。	◇わらべ歌の特徴を生かしてオリジナルのわらべ歌をつくることについて思いをもち、発言したり、考えながら体を動かしたりしている。 <発言・表現②> ◇わらべ歌の旋律の特徴を生かして歌ったり友達と楽しく遊んだりしている。 <表現③>
ま 生と かめ する	1	○『うれしい ひなまつり』と『きみがよ』を歌う。	○日本人が大切にしている楽曲であることに気付けるように、歌われる行事について話し合う機会を設定する。	◇日本の歌の雰囲気を楽しみながら歌っている。 <表現①②③>
【備考】				
・教科書に載っていないわらべうたにも、親しめるようにする。手遊び歌(1人)『ちゃつぼ』、手遊び歌(2人)『お寺の和尚さん』、集団遊び『かごめかごめ』『はないちもんめ』『とおりゃんせ』『ずいずいっころばし』『あぶくたった』等。 ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素): 旋律, 拍, 呼びかけとこたえ ・題材のつながり: 2年「日本のうたで つながろう」				